

萩ジオパーク

推進協議会だより vol.59

萩ジオパーク推進協議会

| 2020年1月31日発行 |

〒758-0041

山口県萩市大字江向602 萩・明倫学舎本館2階

☎ 0838-21-7765 ☎ 0838-25-7767


✉ geo@city.hagi.lg.jp

🌐 <http://www.city.hagi.lg.jp/site/hagigeo/>

📘 <https://www.facebook.com/HagiGeoProject/>



JGN中四国近畿ブロック研修会 に参加しました



1月22日（水）～24日（金）の3日間、南紀熊野ジオパーク（和歌山県）にてJGN中四国近畿ブロックの研修会が開催され、萩から事務局の伊藤と専門員の白井が出席しました。メイン会場は、本州最南端の潮岬に昨年7月オープンした「南紀熊野ジオパークセンター」。展示見学や各種意見交換、交流会などを行いました。

写真は、ジオツアーの一場面。巨大な一枚岩は、1,400万年前のカルデラの一部（古座の一枚岩）

南紀熊野ジオパークセンターは、パネルや映像展示だけでなく、パズルや実験装置などの手で触れて学べるハンズオン展示が多く、川の流れを再現する装置を使ったガイドさんによる実演コーナーもありました。来館者が体験的に学び、ガイドとコミュニケーションをとれるように様々な工夫がされていました。

ジオガイド、専門員、事務局員の3つに分かれての分科会では、日々の活動に関する情報共有や意見交換を行いました。ジオガイドの分科会では、南紀熊野ジオパークの活動紹介とそれに対する意見交換、専門員は各ジオパークの拠点施設の事例紹介やブロック内の連携についての議論、事務局員の分科会では3月でJGNを退会する天草ジオパークから招聘した研究員の講演と意見交換を行いました。複数地域が集まるこうした研修会では、ジオパークに対する認識の度合いや目的意識が地域ごとに異なり、なかなか議論がかみ合わないという難しさがありますが、そうした課題の解決のために、萩からは積極的に提案や議論をしてきました。

最終日には南紀熊野のジオガイドによるジオツアーに参加しました。「古座の一枚岩」や「橋杭岩」といったそそり立つ巨岩を見てめぐり、約1,400万年前に起こった巨大カルデラ噴火の痕跡をたどりました。

毎年恒例となっているブロック研修会、次の会場は全国大会も開催予定の島根半島・宍道湖中海ジオパークです。これからのジオパークのさらなる発展のために一層連携を強めて進んでいくことを誓って解散となりました。



ガイドによる川の流れの実験コーナー
（南紀熊野ジオパークセンター）

3月8日(日)は萩ジオパークフェア2020へ

今回のテーマ「**であい**」は、会場となる阿東にちなんでいます。阿東では、その昔、火山の噴火により川が堰き止められて巨大な湖(古徳佐湖)が存在していました。湖はその後、阿武川とぶつかり決壊。その現場が今の長門峡の丁字川出合淵です。流れ出した湖の水は山を深く削り込み、美しい渓谷・長門峡をつくりました。削られた土砂は川に運ばれ日本海へ、、、。それらが溜まってできたのが城下町・萩の基盤となる三角州です。という事で、川と火山が出合って湖ができ、湖と川が出合って阿東の大地(盆地)、長門峡(渓谷)、萩の城下町(三角州)ができました。阿東は、現在の私たちの暮らしを支える大地をつくった『奇跡の出合いの現場』という訳です。

今回は、伊豆から**ジオガシ旅行団**の**鈴木美智子**さんをお招きして「大地と人を面白おかしく繋ぐ“ジオ菓子”とは」と題した特別講演を行います。「えっ!?これってお菓子なの!?!」と驚くほど石そっくりに作られる「ジオ菓子®」。どうして作られるようになったのか?また、このお菓子が果たす、美味しく味わうだけじゃない大事な役割などのお話を聞きます。

会場では、謎のウエルカムドリンク「**あとうの蛇口**」が皆さんをお出迎え。日本列島の大地の成り立ちを紹介する展示や、恒例となった「**出張!石ころ鑑定団**」などの『大地との出会い』コーナーを皮切りに、ジオパークを通じてたくさんの人と触れ合いながら、ゲームやものづくりをして楽しむ『人との出会い』コーナー、阿東の美味しい食材がたっぷり入った「**ジオなべ**」の無料お振る舞いをはじめ、阿東産のお米に山海の幸を具として詰め込む「**おむすびワークショップ**」など、『食との出会い』コーナーも着々と計画中です。それらの出会いを通じ、私たちが持続可能な社会について考える『未来との出会い』など、盛りだくさんのイベント。お誘い合わせのうえ、ふるってご参加ください。



会場となる阿東地域交流センター
(山口市阿東徳佐)



今回の講師は鈴木美智子さん
(ジオガシ旅行団 代表)



昨年のジオパークフェア2019
@阿武町の様子

2月の予定 - Information -

- **萩ジオプランナー養成講座** 2月1日(土)・2日(日) 9:00~17:00 場所:萩・明倫学舎 内容:ジオツアーなどの企画・立案する実習 講師:萩ジオパーク推進協議会事務局 参加受付終了 主催:萩ジオパーク推進協議会 問合せ:萩ジオパーク推進協議会事務局(0838-21-7765)
- **萩ジオパークフェア2020運営会議** 2月7日(金) 13:30~15:00 場所:萩・明倫学舎 内容:3/8開催の萩ジオパークフェア2020の開催趣旨説明及び出展内容の協議 対象:萩市ジオパーク活動補助金採択団体ほか 主催:萩ジオパーク推進協議会 問合せ:萩ジオパーク推進協議会事務局(0838-21-7765)
- **萩ジオパークフォトコンテスト2019作品募集** 2月14日(金) 必着 内容:「地球の営み」「人の暮らし」の2部門の作品募集。入賞作品は賞品あり。3月8日の萩ジオパークフェア2020会場にて展示 主催:萩ジオパーク推進協議会 問合せ:萩ジオパーク推進協議会事務局(0838-21-7765)
- **geoとも(萩ジオ友の会)定例会「ジオ探訪」** 2月15日(土) 9:30~16:00 集合場所:松陰神社駐車場 内容:「早春の萩(まち)周辺の大地巡り~松本村から田床山へ」 参加費:実費、弁当持参 主催:geoとも 問合せ・申込:geoとも西嶋(0838-26-6123)
- **笠山ジオアドベンチャー** 2月23日(日)・3月1日(日) 10:30~12:00 場所:笠山虎ヶ崎椿群生林 内容:萩椿まつり会場発着で行う、五感を使って楽しむジオツアー。事前申込制、当日参加も可 参加費:無料 主催:萩ジオパーク推進協議会 問合せ:萩ジオパーク推進協議会事務局(0838-21-7765)
- **ジオパークでつながる!世界はこんなに面白い!!ベトナム編~地球に寄り添い、人と支えあう~** 2月29日(土) 10:00~15:00 場所:美祢市別府公民館 内容:Mine秋吉台ジオパークが開催する、ベトナムのユネスコ世界ジオパークと交流し、現地の文化を体験するイベント 問合せ:Mine秋吉台ジオパーク推進協議会事務局(0837-63-0055)

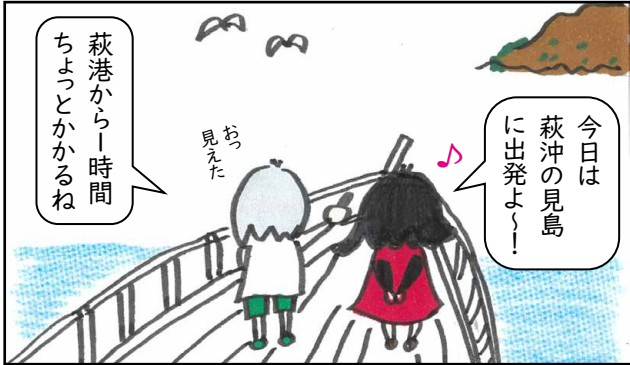
※●の行事に参加される場合は、必ず萩ジオパーク推進協議会事務局(0838-21-7765)までご連絡ください。

20話突破
おめでとう!

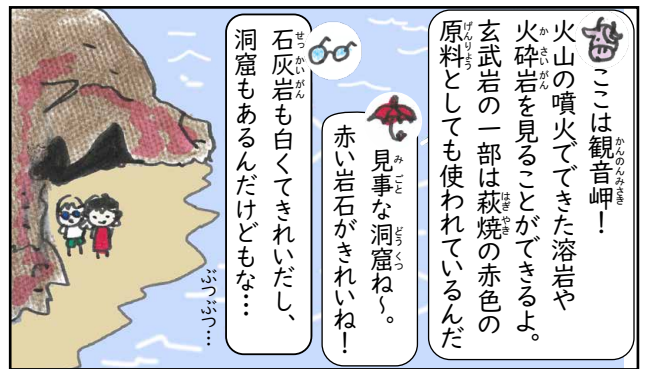
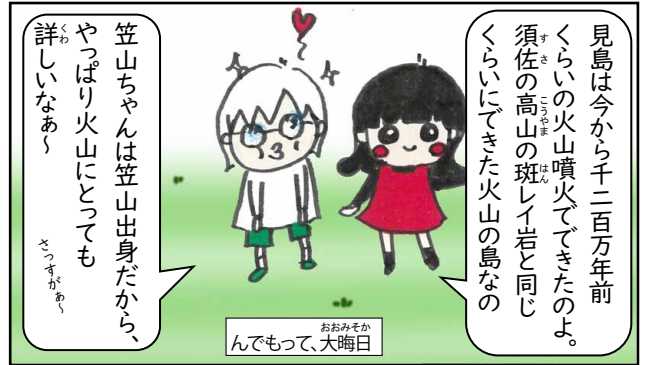
がんばれ! 半田くん

原作：わっきー教授 画：白玉だんご

第20話 見島潮 登場



第21話 プレートでBBQ?



わっきー教授のつぶやき ~ひとこと解説~

今回は、半田くんと笠山ちゃんが、見島^{うしじま}潮くんの地元・見島へやって来ました。見島は、萩市街の北北東約45kmの距離にある島で、日本海に浮かぶ山口県最北の島です。萩港からフェリー（定期船ゆりや）で、約70分ほどで見島に着きます。

萩市には7つの島がありますが、他の萩六島の地盤が約200万年より新しい阿武火山群から出来ている（『がんばれ！半田くん』第14・15話を見てね）のに対して、見島はずっと古い約1200万年前頃に火山噴火で出来たと言われていています。日本列島は昔、中国や朝鮮半島などのアジア大陸にくっついていたのですが、約2000万年前から1500万年前にかけて次第にゆっくり離れていき、今のような日本列島になりました。ですから、見島が出来た1200万年前というのは、日本海が出来はじめてそんなに経っていない時期なのです。日本海が出来た約2000万年前から1500万年前には、フィリピン海プレートの東側が広がって行き、四国海盆というものができました。このとき出来た若いプレートが今、南海トラフに沈み込んで巨大地震を起こすかもしれないと言われていています。見島を作った火山は、日本海が出来るときに大陸地殻が引き延ばされて出来た割れ目やその地下に上昇してきた暖かいマントル物質によって引き起こされたと考えられます。また、新しく出来た若々しいフィリピン海プレートも関係した可能性もあります。いずれにしても、見島が火山島として出来た約1200万年前はそうした激動の時代でした。



萩ジオパークには、須佐のホルンフェルスがありますが、このホルンフェルスの原因となった高山の斑レイ岩は、約1300万年前に出来たマグマが冷えて固まった岩石。見島の火山とは時期的に近いので、出来た原因には近いものがあったと考えられます。見島の火山岩や須佐ホルンフェルスと同時期にできた地層や岩石は、山陰海岸ジオパークにも多くみられ、北陸や東北地方の日本海岸沿いにも広く分布しています。

見島は、北北東に少し伸びた形をしていて、東側に湾曲した地形があり、そこに宇津港があります。全体として、海岸が急な崖になっていて、島の中央部は比較的なだらかな地形をしています。島のあちこちにため池があり、平らな台地の上では、見島牛の放牧や農業が行われています。



宇津港の北側には観音崎があり、ここでは玄武岩の溶岩や火砕岩が作る美しい景観をみることが出来ます。溶岩が出来るときには、発生する高圧の火山ガスの影響で洞窟が出来ることがあります。このような洞窟を溶岩洞と呼び、富士山麓の樹海で有名な青木ヶ原などには数多くみられます。半田くんの石灰岩ばかりではなく、火山の溶岩でも洞窟ができるんですね。半田くんの自慢が1つ減ってしまいました。可哀想に…。

あ、そうそう。「見島といえば見島牛」と呼ばれるくらい有名な牛ですが、この見島牛とトカラ列島の口之島牛のみが、残存する日本の国産在来種とされています。室町時代に朝鮮半島から渡ってきた見島牛は、西洋種の影響を全く受けていない数少ない牛なのです。それなのに、半田くんたら、スキヤキに、バーベキュー？ダメでしょ！わっきー教授も呼んでくれなきゃ！（今、半田くんが「そこかよっ！」とつつこみを入れました）。見島には、八町八反と呼ばれる古くから続く広大な水田があり、すぐ近くにはジーコンボ古墳があります。古代の石室が100以上も密集する地域です。八町八反やジーコンボ古墳の存在は、この見島が古くから交通の要衝として長く発展してきた証拠ですね。

さて2020年はオリンピックイヤー。楽しみですね。萩ジオパークも、『がんばれ！半田くん』もますます、活躍して、萩市・阿武町・山口市阿東地域の発展に貢献していきたいと思います。本年が皆様にとって、より良い素晴らしい1年になりますように、ここからお祈りいたします。



あっ、はっぴい にゅう いやあ ~!!!
(ちょっと遅れましたが笑)